

中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相: 育児経験のある

女性看護師のライフストーリーの分析から

小手川良江

I. 研究の背景

現在の日本では、社会制度や医療制度改革により、住み慣れた地域で生活する患者を地域全体で支える地域完結型に移行している。地域完結型の医療を実現するためには、専門的な知識と技術および生活経験を有する中堅看護師が担う役割は重要である。しかし、中堅看護師は多くの役割を担っており、自己の望むキャリアビジョンを描くことが難しい状況にある。中堅看護師の看護実践能力の研究では、経験年数5～20年の間に伸び悩むことが指摘されており(辻ら, 2007)、組織的な継続教育だけでは中堅看護師のキャリア発達を支援することは難しい。また、中堅看護師は、ライフイベントによる変化も多い世代であり、離職につながる危険性もある。このような状況にある中堅看護師に対して、レジリエンスを強化することが支援の一つであると示唆されている(小手川, 本田, 2019, pp. 45-47)。しかし、先行研究では、レジリエンスに対して一時点での影響を捉えようとするものが多く、プロセスを明らかにしている研究は見当たらなかった。

そこで、中堅看護師が、キャリア発達において困難をどのように捉え乗り越えたのか、乗り越えた結果何がもたらされたのかというプロセスとしてのレジリエンスを明らかにすることが、中堅看護師のキャリア支援のために必要であると考えた。

II. 研究目的

中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相を明らかにする事を目的とした。

本研究では、中堅看護師がキャリア発達において困難をどのように捉えていたのか、困難な状況に対してどのように適応し乗り越えたのか、乗り越えた結果何がもたらされたのかという一連のプロセスとその促進要因や阻害要因を含めた様相を描くことで、中堅看護師自身が主体的にキャリア発達を行うための具体的な支援を検討することができると考えた。

III. 研究方法

ライフストーリー法(桜井, 2016)を用いた質的記述的研究デザインとした。ライフス

トリー法を用いた研究は、その人自身の経験から社会や文化の諸相や変動を読み解こうとするものであり(桜井, 2002, p. 14)、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相をプロセスとして捉えることができると考えた。研究参加者については、働いている看護師の92.2%が女性看護師であること(厚生労働省, 2019)、文献検討および予備調査(2019年7月)の結果を踏まえ、中堅看護師の時期(経験年数5年目以上15年目未満)の経験を十分に語る可以考虑とされる経験年数15年目以上20年目以下の育児経験のある女性看護師とした。

データ収集は、2019年7月～2021年3月に行い、ライフストーリー法によるインタビューを1回60分程度で2回/人実施した。インタビュー内容は、キャリア発達における困難をどのように捉えていたのか、困難な状況にどのように適応し乗り越えたのか、乗り越えた結果、何がもたらされたのか、とした。

分析については、人間の発達や人生径路の多様性・複線性の時間的変容を捉える分析・思考の枠組みモデルである複線径路・等至性モデル(Trajectory Equifinality Model: 以下TEM)(サトウ, 2009)を用いた。研究参加者ごとの分析では、各自のライフストーリーから「キャリア発達における困難」「困難な状況にどのように適応し乗り越えたのか」「乗り越えた結果、何がもたらされたのか」を抽出し、要約したコードを作成した。さらにコードを類似性により集めサブカテゴリーを作成した。サブカテゴリーを時系列に並べ、研究参加者ごとにTEM図を作成し、分岐点(BFP)、等至点(EFP)、社会的助勢(SG)、社会的方向づけ(SD)を分析した。総合的な分析では、研究参加者のサブカテゴリーを集め、カテゴリーを再生成した。カテゴリーを時系列に並べ統合したTEM図を作成し、多くの人を通る出来事が生じる点として必須通過点(OPP)を分析した。また、研究参加者にとって、節目となるような経験であり、径路が変容するような転換点を時期区分として検討した。

本研究を実施するにあたっては、本学における研究倫理審査委員会(18-025-②)および共同看護学専攻研究倫理審査委員会の承認(18-025-②)を得た。

IV. 結果

研究参加者は6名で、年齢は30～40代であり、経験年数は15～19年目であった。研究参加者ごとのTEM図を分析すると、様々な困難を経験しているが、ライフイベントや中堅看護師としての役割負荷による困難を乗り越えるという共通した径路も描かれていた。さらに、統合したTEM図から見出した時期区分を検討すると、中堅看護師のキャリア発達にお

けるレジリエンスの様相は、困難を何度も経験しているが、周囲を調整しながら多くの支援を受けて困難を乗り越え自己の成長につなげるという一連のプロセスであることが明らかになった。この中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相には二つの局面が見出された。【 】は時期区分 { } は必須通過点、社会的助勢は《 》を示す。

一つ目は、ライフイベントによる困難を乗り越える局面であった。中堅看護師は、キャリア初期の頃に【看護師としての経験をつみ自分のキャリアビジョンをイメージする】ことにより、自己のキャリアビジョンに向けて努力していたが、【ワークライフバランス調整困難によりキャリアビジョンが崩れ退職の危機になる】という経験をしていた。この時期の必須通過点 (OPP) は {ライフイベント、家族の支援がないことにより自己のキャリアビジョンを諦めた} であり、節目となるような困難な経験であった。しかし、必須通過点 (OPP) である {仕事を抑えて育児を優先しワークライフバランスを調整した} {仕事と育児のバランスを取り自己のキャリアビジョンを描き直した} などにより、【育児優先でワークライフバランスを調整し自己のキャリアビジョンを描き直し仕事を継続する】という時期に移っていた。また、《病院の育児支援制度が整っていた》などの職場レベルの社会的助勢 (SG) や《家族が支援をしてくれた》《人間関係を調整し育児や働きやすい環境を作った》《後悔せずにポジティブに捉えた》などの個人レベルの社会的助勢 (SG) により、中堅看護師は、様々な調整をしてワークライフバランスを整えていた。これらより、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相には、キャリアビジョンを描き直しワークライフバランスを調整しながら働きつづけるという特徴があった。

二つ目は、中堅看護師としての役割負担による困難を乗り越える局面であった。中堅看護師に対する育児支援は、子どもの成長に伴い減っていた。そのため、【子どもの成長に伴い仕事や中堅看護師としての役割が増え負担やストレスが増す】という時期になっていた。この時期に中堅看護師は、{子どもが成長し研究や委員会の役割を担うようになった} という必須通過点 (OPP4) を経験していた。しかし、《上司や同僚がよいタイミングで声をかけてくれた》《上司や認定看護師などのロールモデルになる存在がいた》などの社会的助勢 (SG) により【何度も立ち向かい困難を看護師としての自己の成長の機会とする】という時期に移行していた。中堅看護師は、周囲からの支援だけで困難を乗り越えるのではなく、《自分は困難を乗り越えることができると思っていた》《客観的に見て相手の立場になって行動した》《自分の課題を認識した》などの個人レベルの社会的助勢 (SG) により、状況をポジティブに捉え、困難に立ち向かい、困難を成長の機会にしていた。さらに、自

己の経験を振り返ることにより、【資格取得や看護の楽しさを実感し自己の成長を認める】という時期に移っていた。これらより、中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相には、何度も立ち向かい困難を自己の成長につなげるという特徴があった。

V. 考察

1. キャリアビジョンを描き直しワークライフバランスを調整しながら働きつづける

研究参加者は、ワークライフバランスが崩れ退職の危機を経験していたが、退職せずに看護師として働き続けていた。この時期の必須通過点はライフイベントに関することであり、ライフイベントの影響が大きかった。必須通過点は、文化的・社会的な制約や制限がかかっていることも指摘されており(安田, サトウ, 2017, p. 13)、女性看護師に育児などの負担という制限があることが示されていた。ライフイベントの負担によりキャリアビジョンを諦める経験は、中堅看護師にとって重要な節目となっていた。この節目に研究参加者は、家族や職場における人間関係を構築し、育児と仕事が両立できるように自ら調整をしていた。この節目に調整を行ったことにより、ワークライフバランスが調整され、気持ちを切り替え、キャリアビジョンを描き直し働きつづけることにつながっていたと考えられた。

以上より、節目となるような困難を経験した際に中堅看護師が自身の力を発揮し、キャリアビジョンを描き直すことへの支援の重要性が示唆された。

2. 何度も立ち向かい困難を自己の成長につなげる

中堅看護師は困難を何度も経験していたが、困難を乗り越え【資格取得や看護の楽しさを実感し自己の成長を認める】という等至点(EFP)に至るプロセスがTEM図に描き出された。この等至点(EFP)に至る径路の中で、困難な経験が自身の成長につながるような転機であると認識したのは、社会的助勢(SG)の影響が大きかったと考えられた。中堅看護師が、困難を乗り越える際に阻害的な影響を与える要因でもある社会的方向づけ(SD)を認識することは少ないが、困難を乗り越えることを促進する要因である社会的助勢(SG)は多く認識していた。研究参加者は、困難に陥っても、憂いて悲観するのではなく、前向きに捉え、自己の力と様々な支援という社会的助勢(SG)を活用し、困難を乗り越えていた。さらに、研究参加者はインタビューにおいて、ライフストーリーを語ることにより過去を振り返り、困難を分岐点(BFP)としキャリア発達における転機として意味づけしていたと考えられた。

以上より、困難を経験してもその困難を転機とし、その困難から逃げることなく困難に立ち向かい自己の成長の機会となるように支援することが重要であると考えた。さらに、

看護師が自己の経験を振り返り、困難や経験の意味づけをすることにより、自己の成長を実感することの必要性も示唆された。

3. 本研究の限界と課題

本研究では、TEM 図を用いることで、限られた対象ではあるが、多くの中堅看護師が経験するライフイベントによる困難や中堅看護師の特徴的な困難、困難を乗り越えるための要因、困難を乗り越えた結果までを含めた中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相をプロセスとして描き出すことができた。しかし一方で、限られた対象の結果であり、支援を必要としている中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相のすべてを描くことはできていない。したがって今後は、働きたいという思いを持ちながらも退職せざるを得なかったプロセスや男性看護師のキャリア発達などの多様な中堅看護師のライフストーリーを集め、中堅看護師特有の特徴やレジリエンスの様相の多様性を明らかにし、中堅看護師自身に求められる力や、中堅看護師のレジリエンスを引き出し、主体的なキャリア発達を促す支援の在り方を検討していくことが課題である。

VI. 結論

中堅看護師のキャリア発達におけるレジリエンスの様相は、中堅看護師が困難を経験しながらも、自身の力を使い、周囲を調整し多くの支援を受けて困難を何度も乗り越え自己の成長につなげるという一連のプロセスであった。その特徴は、キャリアビジョンを描き直しワークライフバランスを調整しながら働きつづける、何度も立ち向かい困難を自己の成長につなげるというものであった。以上より、中堅看護師が主体的にキャリア発達を行うためには、中堅看護師自身が困難を乗り越え成長につなげるというプロセスとしてのレジリエンスを意識し、必要な時には、自ら支援を求めるといった主体的な行動をすること、中堅看護師のキャリア発達を支える管理職が、中堅看護師にとっての節目に重点を置きタイミングに応じた支援を行うことが必要であると考えた。また、自己の経験を振り返り、困難や経験の意味づけをすることの必要性も示唆された。

The Aspect of Resilience on Career Development of Mid-Career Nurses: Analysis of the Life Stories of Female Nurses with Childrearing Experience

Objective

This study investigates the aspect of resilience on career development of mid-career nurses.

Method

This study used a qualitative descriptive research design and data was collected using the life story method. It targeted female nurses with over 15 years less than 20 years of work experience and of childrearing experience. Participants were interviewed about their perceived difficulties in career development, how they adapted to such difficulties and overcame them, and what the results were. The analysis used the Trajectory Equifinality Model (TEM), an analytical/thinking framework that captures the temporal transformation of the diversity and multilinearity of human development and life paths.

Result

The study analyzed life stories of six participants. The results indicated that nurses went through a process in which they often experienced difficulties, and overcame them on their own and through help from others to achieve personal growth. This process had two phases. The first phase focused on overcoming life events. In this phase, mid-career nurses experienced difficulties that made them consider quitting their jobs. However, the nurses made various adjustments such as building relationship with people around them, using childcare support, and so on, to achieve work-life balance. Moreover, nurses recast their career vision and continued working as nurses. The second phase focused on overcoming difficulties associated with duties as mid-career nurses. During this phase, mid-career nurses' duties increased while childcare support declined as their children grew. This was yet another difficulty that made them consider quitting. However, they received support from their supervisors and colleagues. Furthermore, they did not become pessimistic while experiencing difficulties. Instead, they regarded such difficulties as

opportunities for personal growth. As a result, they achieved personal growth by often confronting and overcoming difficulties.

Discussion

Although the number of participants was limited, this study was able to depict the significant aspect of resilience on career development of mid-career nurses. The resilience of mid-career nurses has a significant aspect on their career development. Nurses continued working by recasting their career vision and adjusting their work-life balance while facing difficulties and used such difficulties for personal growth. Mid-career nurses considered difficulties as opportunities for growth. Therefore, support must be provided at appropriate times to help nurses to reflect on their experiences and recast their career vision. During these interviews, the study participants told their own life stories and reflected on the processes by which they overcame their difficulties, thereby, being able to translate these experiences into turning points in their career. This also became an opportunity for them to recognize their own growth. Therefore, the findings of this study showed the importance of mid-career nurses telling their own life stories, recognizing that their difficult experiences lead to their personal growth.

Keywords: resilience, mid-career nurses, career development, life story, Trajectory Equifinality Model (TEM)